

共通科目名	臨床病態生理学		時間数の総計 32	
学ぶべき事項	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学		講義	29
			演習	2
			試験	1
担当指導者				
学習目標	多様な状況においてあらゆる年齢層の対象者に対してケアを安全に実践するための解剖学、生理学および病態学の知識を身につける 包括的にいち早くアセスメントするための解剖学、生理学および病態学の臨床現場での活用方法を身につける			
研修方法 研修場所	講義（放送授業）：E-ラーニング	1) 事前テスト（10分） 2) 講義（PDF資料・動画） 3) 事後テスト（30分）		場所：太田西ノ内病院
	演習（面接授業）：指導者・他の受講者と対面またはオンラインツール	主要疾患の病態生理と検査、および治療 1) 個人学習 2) 集合学習		
評価方法	講義（放送授業）：各単元ごとにE-ラーニング上で事後テストを行い、理解度を確認する 演習（面接授業）：グループディスカッションの観察評価、レポートの内容評価を行う 講義・演習により、すべての学ぶべき事項を学習した後、科目最終試験（筆記試験）を行い、科目全体の理解度を確認する			

通番	学ぶべき事項	単元	学習内容	方法	時間数
1	1	臨床解剖学（総論）	解剖学に関わる用語 細胞の構造 組織・膜・外皮系 骨格系と筋 生殖器系の構造	講義 （放送授業）	1.5
2	2	臨床病理学（総論）	細胞適応と細胞障害 炎症 がん 喫煙・アルコールの健康影響と栄養・代謝障害 老化	講義 （放送授業）	2
3	3	臨床生理学（総論）	ホメオスタシス 細胞の機能 活動電位と骨格筋の収縮 酸塩基平衡 代謝 生殖 ストレス	講義 （放送授業）	2
4	1, 2, 3	神経系の解剖生理と病理	神経系の細胞と神経刺激伝達 神経系の概要と脳の構造 脳神経と脊髄神経 自律神経系 体性神経系と脊髄路 脳血流と中枢神経系の保護機能 アルツハイマー型認知症・パーキンソン病 脳疾患 小児の神経疾患	講義 （放送授業）	2.5
5	1, 2, 3	循環器系の解剖生理と病理	心臓の構造と循環 心臓の刺激伝導系と心電図 血管の構造と血圧の調節機構 リンパ系の解剖生理 静脈の疾患 動脈の疾患 虚血性心疾患 心膜炎・心筋症・弁膜症 心不全と代表的な不整脈 心臓の発達と先天性心疾患	講義 （放送授業）	2.5
6	1, 2, 3	呼吸器系の解剖生理と病理	呼吸器系の構造と機能 呼吸器系の生理 低酸素血症の原因と呼吸器疾患の症状 胸壁・胸膜の疾患 拘束性肺疾患 閉塞性肺疾患 肺感染症と肺癌 小児の呼吸器の特徴と疾患	講義 （放送授業）	2.5
7	1, 2, 3	皮膚・感覚器系の解剖生理と病理	皮膚の機能と構造・皮膚疾患に関する用語 急性炎症性皮膚症と慢性炎症性皮膚症 皮膚感染症と水疱性疾患 皮膚腫瘍 眼の構造 網膜の構造と視野・眼球運動 聴覚器の構造と聴覚障害 味覚と嗅覚の原理	講義 （放送授業）	2.5

8	1, 2, 3	消化器系の解剖生理と病理	消化器系の構成器官と消化・吸収 上部消化管の機能と構造 下部消化管の機能と構造 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能 消化器系の疾患によくみられる症状と上部消化管の異常 下部消化管の異常 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 小児期によくみられる消化器系の異常	講義 (放送授業)	2.5
9	1, 2, 3	泌尿器系の解剖生理と病理	泌尿器系の構成器官と主な働き ネフロンの構造と機能 尿の生成 腎臓の疾患 閉塞性尿路疾患 小児期によくみられる泌尿器疾患	講義 (放送授業)	2
10	1, 2, 3	内分泌・代謝系の解剖生理と病理	内分泌系機能の概要 下垂体・視床下部の構造と機能 下垂体・視床下部機能の異常 甲状腺・副甲状腺の構造と機能 甲状腺機能の異常 副甲状腺機能の異常 副腎の構造と機能 副腎機能の異常 膵臓の構造と内分泌機能 糖尿病	講義 (放送授業)	2.5
11	1, 2, 3	血液系の解剖生理と病理	血液の機能と成分 リンパ液とリンパ器官 骨髄と造血機構 止血機構 貧血と骨髄増殖性疾患 血小板減少と血栓症 血液悪性腫瘍	講義 (放送授業)	2.5
12	1, 2, 3	免疫系の解剖生理と病理	免疫細胞と免疫系による防御機構 抗原と抗体 過敏症 自己免疫疾患 臓器移植と移植免疫 免疫不全症	講義 (放送授業)	2
13	2, 3	感染症の病態生理	感染症の要因と成立 細菌と細菌感染症 真菌とウイルス 寄生虫と寄生虫感染症 後天性免疫不全症候群 (AIDS) 感染症の治療と予防	講義 (放送授業)	2
14	1, 2, 3	臨床病態生理学 演習	主要疾患の病態生理と検査、および治療 ・個人学習：各受講者が、所属施設で経験した主要疾患もしくは典型的な疾患症例を1例挙げ、病態生理と検査および診断、治療についてワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習：それぞれの症例の特徴（一般的な治療や検査と異なる点など）や今後の自身の課題などについてグループディスカッションを行う	演習 (面接授業)	2
15	科目最終試験			筆記試験 (対面または E-ラーニング上での 実施)	1
備考					

共通科目名	臨床推論		時間数の総計 45	
学ぶべき事項	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床英学を学ぶ 1.診療のプロセス 2.臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3.医療面接の理論と演習・実習 4.各種臨床検査の理論と演習 （心電図／血液検査／尿検査／病理検査／微生物学検査／生理機能検査／その他の検査） 5.画像検査の理論と演習（放射線の影響／単純エックス線検査／超音波検査／CT・MRI／その他の画像検査） 6.臨床疫学の理論と演習		講義	31
			演習	3
			試験	1
			実習	10
担当指導者				
学習目標	多様な臨床現場の症例においての病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントするため、医療面接等の臨床推論の基本的知識と技術を身につける 多様な臨床場面において必要となる基本的な臨床検査法や画像検査法を理解し、安全に配慮したケアを導くための基礎的知識を身につける			
研修方法 研修場所	講義（放送授業）：E-ラーニング	1) 事前テスト（10分） 2) 講義（PDF資料・動画） 3) 事後テスト（20分～40分）		
	演習（面接授業）：指導者・他の受講者と対面またはオンラインツール	事例検討 1) 個人学習 2) 集合学習	場所：太田西ノ内病院	
	実習	臨床推論の実際	場所：太田西ノ内病院	
評価方法	講義（放送授業）：各単元ごとにE-ラーニング上で事後テストを行い、理解度を確認する 演習（面接授業）：グループディスカッションの観察評価、レポートの内容評価を行う 講義・演習により、すべての学ぶべき事項を学習した後、科目最終試験（筆記試験）を行い、科目全体の理解度を確認する 実習：レポート内容を評価する			

通番	学ぶべき事項	単元	学習内容	方法	時間数
1	1, 3	診療のプロセス、医療面接の理論	診療のプロセス 医療面接の理論 診療プロセスにおける医療面接のポイント	講義 (放送授業)	2
2	2, 3	臨床推論の基本的考え方	臨床推論の基本的考え方 フィジカルアセスメント・バイタルサイン 医療面接からの考慮すべき診断プロセス（症例：アンカリングの例、関連痛）	講義 (放送授業)	2
3	6	臨床疫学の基礎的理論、臨床診断入門	臨床診断入門（臨床推論における判断手法、鑑別診断の挙げ方、外来診療で遭遇する症状と疾患） 臨床疫学の基礎理論（EBM、臨床疫学、診断に関する研究、臨床への応用）	講義 (放送授業)	2
4	4	一般検査の理論	尿検査 便検査 脳脊髄液検査 胸水・腹水の検査	講義 (放送授業)	2
5	4	血液検査、血液生化学検査の理論	血液検査の基本 末梢血液一般検査（全血球計算：CBC）と末梢血液像 骨髄像ほか特殊検査 凝固線溶検査 血清蛋白検査 非蛋白性窒素検査 血清酵素検査 ビリルビン検査と電解質・金属検査	講義 (放送授業)	2
6	4	代謝・内分泌検査、臓器機能検査の理論	糖代謝の検査 脂質代謝の検査とメタボリックシンドローム 内分泌関連検査 甲状腺関連検査 副腎関連検査 その他の内分泌関連検査（肝障害の検査、膵障害の検査、腎障害の検査） 心筋傷害・心不全の検査 腫瘍マーカーの検査	講義 (放送授業)	2
7	4	微生物学検査の理論	病原微生物の種類 微生物検査の基本 細菌検査 真菌検査 ウイルス検査	講義 (放送授業)	2

8	4	免疫血清検査・病理検査の理論	免疫血清検査の基本 ウイルス感染症の血清学的検査 感染症スクリーニング 炎症の検査 M蛋白の検査 自己免疫疾患・アレルギーの検査 輸血検査 病理検査の基本 細胞診検査 病理検査の進展と乳がん診療における病理検査	講義 (放送授業)	2
9	4	生理機能検査の理論	循環器検査 (標準12誘導心電図、負荷心電図、ホルター心電図、脈波伝播速度(PWV)) 呼吸機能検査 (スパイロメトリー、精密肺機能検査、動脈血液ガス分析) 脳波 筋電図	講義 (放送授業)	2.5
10	5	X線検査の理論	画像診断・X線検査の実際 X線検査の原理 X線検査の注意点	講義 (放送授業)	2
11	5	CT検査の理論	CT検査の実際 CT検査の原理 CT検査の注意点	講義 (放送授業)	2
12	5	MRI検査の理論	MRI検査の実際 MRI検査の原理 MRI検査の注意点 MRI検査の特徴	講義 (放送授業)	2
13	5	核医学検査の理論	核医学とは 基本的な核医学検査方法 基本的な核医学治療方法 安全に配慮した核医学検査の実際	講義 (放送授業)	2
14	5	超音波検査の理論	超音波検査の基本 超音波検査各論 (腹部、体表 (甲状腺・リンパ節)、循環器、血管)	講義 (放送授業)	2
15	5	血管造影検査の理論	画像診断と画像下治療 (IVR : Interventional Radiology) IVRの手技の実際 放射線被ばく	講義 (放送授業)	1
16	5	内視鏡検査の理論	内視鏡検査の目的と適応 内視鏡機器の基本構造と取り扱い インフォームド・コンセントと検査前の問診 検査法の概要 処置と治療の概要 偶発症	講義 (放送授業)	1.5
17	2, 3, 4, 5, 6	臨床推論 演習	事例検討 (提示された2事例につき以下をそれぞれ行う) ・個人学習: 提示された事例について鑑別疾患とその理由、診断のために必要な情報を推論してワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習: 事例に対する推論や、診断に必要な情報最も考えられる疾患とその理由などについてグループディスカッションを行う	演習 (面接授業)	3
18		【実習】医療面接	模擬面接 ・模擬患者に対する面接	実習	2
19		【実習】臨床推論	臨床推論の実際 ・臨床の場で診断のために必要な情報を推論し、実際の診断と比較する。指導者・受講者と共有する。	実習	8
20	科目最終試験			筆記試験 (対面またはE-ラーニング上での実施)	1

備考	
----	--

共通科目名	フィジカルアセスメント		時間数の総計 45	
学ぶべき事項	身体診察・診断学（演習を含む）を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習（全身状態とバイタルサイン／頭頸部／胸部／腹部／四肢・脊柱／泌尿・生殖器 乳房・リンパ節／神経系） 3. 身体診察の年齢による変化（小児／高齢者） 4. 状況に応じた身体診察（救急医療／在宅医療）	講義	29	
		演習	2	
		試験	1	
		実習	13	
担当指導者				
学習目標	対象者がもつ異常／正常の判断ができる系統的なフィジカルアセスメントの知識と技術を身につける 多様な臨床現場の症例に関するアセスメントをするためのフィジカルアセスメントの活用方法を身につける			
研修方法 研修場所	講義（放送授業）：E-ラーニング	1) 事前テスト（10分） 2) 講義（PDF資料・動画） 3) 事後テスト（30分）		
	演習（面接授業）：指導者・他の受講者と対面またはオンラインツール	身体診察の基本手技の確認・症例に必要な身体診察の検討 1) 個人学習 2) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
	実習	フィジカルアセスメントの実際		場所：太田西ノ内病院
評価方法	講義（放送授業）：各単元ごとにE-ラーニング上で事後テストを行い、理解度を確認する 演習（面接授業）：グループディスカッションの観察評価、レポートの内容評価を行う 講義・演習により、すべての学ぶべき事項を学習した後、科目最終試験（筆記試験）を行い、科目全体の理解度を確認する 実習：レポートの内容評価を行う			

通番	学ぶべき事項	単元	学習内容	方法	時間数
1	1	身体診察基本手技の理論	General appearanceの診かた 脈拍測定、血圧測定、呼吸数測定、体温測定 診察手技の基本：視診、打診、聴診、触診 問診、全身観察、バイタルサインによるトリアージ	講義 (放送授業)	4
2	1	部位別身体診察手技と所見の理論： 全身状態とバイタルサイン	発熱に関する症候学 発熱に対する身体診察 発熱の鑑別診断	講義 (放送授業)	4
3	2	部位別身体診察手技と所見の理論： 胸部－循環器	心臓の診察 末梢血管系の診察 心音と心雑音 循環器系の症候学：心臓や血管の構造と血液循環、胸痛、動悸 胸痛に対する身体診察	講義 (放送授業)	3.5
4	2	部位別身体診察手技と所見の理論： 胸部－呼吸器、乳房、リンパ節	乳房の診察 背部の診察 胸部視診 胸部打診：肺気腫、気胸、胸水、肺炎・肺腫瘍 呼吸聴診 呼吸音と副雑音 呼吸器の症候学：呼吸困難、喀痰 呼吸困難に対する身体診察	講義 (放送授業)	3.5
5	2	部位別身体診察手技と所見の理論： 腹部、泌尿器、生殖器	腹部の診察 腹水の診察 肝臓の診察 消化器系の症候学：腹痛、悪心・嘔吐、下痢 腹痛に対する身体診察 生殖器のフィジカルアセスメント	講義 (放送授業)	4
6	2	部位別身体診察手技と所見の理論： 頭頸部、四肢、脊柱・神経系	頭頸部の診察 眼、耳鼻、口腔咽頭の診察 筋骨格および神経系の診察 腱反射 神経系の症候学：めまい、意識障害 めまい、麻痺、ふらつきに対する身体診察	講義 (放送授業)	4.5
7	3	身体診察の年齢による変化 小児	小児の成長発達 小児の症候学 小児の腹痛・嘔吐に対する身体診察 小児の咳嗽に対する身体診察 小児の発熱に対する身体診察	講義 (放送授業)	3
8	3,4	身体診察の年齢による変化 高齢者 状況に応じた身体診察	高齢者の身体的・臨床的特徴 高齢者に対する診察のポイント 高齢者の脱水・転倒転落・虐待 身体所見および検査（在宅医療） 状況に応じたトリアージ（救急医療）	講義 (放送授業)	2.5

9	1,2	フィジカルアセスメント 演習	<p>身体診察の基本手技の確認・症例に必要な身体診察の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人学習：身体診察の基本手技について学習した上での注意点や疑問点と、自身の経験症例を挙げ、症例に必要な身体診察や手順、診断に必要な検査についてワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習：必要な身体診察の内容、注意点、今後の自身の課題などについてグループディスカッションを行う 	演習 (面接授業)	2																		
10		【実習】身体診察基本手技	<p>脈拍測定、血圧測定、呼吸数測定、体温測定 視診、打診、聴診、触診</p>	実習	1																		
11		【実習】部位別身体診察手技	<table border="0"> <tr> <td>全身観察</td> <td>全身外観のチェック</td> </tr> <tr> <td>循環器系の診察</td> <td>心臓の診察、末梢血管系の診察、心臓聴診、心音と心雑音</td> </tr> <tr> <td>呼吸器系の診察</td> <td>胸部視診、胸部打診、呼吸聴診、呼吸音と副雑音、</td> </tr> <tr> <td>腹部の診察</td> <td>フィジカルアセスメント：腹部、腹部打診、腹水の診察、肝臓の診察</td> </tr> <tr> <td></td> <td>頭頸部の診察、目の診察、耳鼻の診察、口腔咽頭の診察</td> </tr> <tr> <td>頭頸部の診察、四肢、脊柱、</td> <td>筋骨格および神経系の診察、腱反射、フィジカルアセスメント：筋骨格、</td> </tr> <tr> <td></td> <td>めまいに対する身体診察、麻痺を主訴とする患者の身体診察、ふらつきに対する身</td> </tr> <tr> <td></td> <td>体身体診察、けいれん・意識障害を主訴とする患者の身体診察</td> </tr> <tr> <td>部位別身体診察手技の実際</td> <td>患者に対する手技から得られた情報のアセスメント</td> </tr> </table>	全身観察	全身外観のチェック	循環器系の診察	心臓の診察、末梢血管系の診察、心臓聴診、心音と心雑音	呼吸器系の診察	胸部視診、胸部打診、呼吸聴診、呼吸音と副雑音、	腹部の診察	フィジカルアセスメント：腹部、腹部打診、腹水の診察、肝臓の診察		頭頸部の診察、目の診察、耳鼻の診察、口腔咽頭の診察	頭頸部の診察、四肢、脊柱、	筋骨格および神経系の診察、腱反射、フィジカルアセスメント：筋骨格、		めまいに対する身体診察、麻痺を主訴とする患者の身体診察、ふらつきに対する身		体身体診察、けいれん・意識障害を主訴とする患者の身体診察	部位別身体診察手技の実際	患者に対する手技から得られた情報のアセスメント	実習	12
全身観察	全身外観のチェック																						
循環器系の診察	心臓の診察、末梢血管系の診察、心臓聴診、心音と心雑音																						
呼吸器系の診察	胸部視診、胸部打診、呼吸聴診、呼吸音と副雑音、																						
腹部の診察	フィジカルアセスメント：腹部、腹部打診、腹水の診察、肝臓の診察																						
	頭頸部の診察、目の診察、耳鼻の診察、口腔咽頭の診察																						
頭頸部の診察、四肢、脊柱、	筋骨格および神経系の診察、腱反射、フィジカルアセスメント：筋骨格、																						
	めまいに対する身体診察、麻痺を主訴とする患者の身体診察、ふらつきに対する身																						
	体身体診察、けいれん・意識障害を主訴とする患者の身体診察																						
部位別身体診察手技の実際	患者に対する手技から得られた情報のアセスメント																						
12	科目最終試験			筆記試験 (対面または E-ラーニング上での 実施)	1																		

備考	
----	--

共通科目名	臨床薬理学		時間数の総計 45.5	
学ぶべき事項	薬理学、薬理学を学ぶ 1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3. 主要薬物の相互作用の理論と演習 4. 主要薬物の安全管理と処方理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む		講義	41.5
			演習	3
			試験	1
担当指導者				
学習目標	臨床薬理学の基礎的知識を身につける 代表的な薬剤投与の判断、投与後の患者モニタリング、患者の服薬管理の向上を図るための知識を身につける			
研修方法 研修場所	講義（放送授業）：E-ラーニング	1) 事前テスト（10分） 2) 講義（PDF資料・動画） 3) 事後テスト（30分）		
	演習（面接授業）：指導者・他の受講者と対面またはオンラインツール	主要疾患に対する薬物治療と服薬管理、多職種連携 1) 個人学習 2) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
評価方法	講義（放送授業）：各単元ごとにE-ラーニング上で事後テストを行い、理解度を確認する 演習（面接授業）：グループディスカッションの観察評価、レポートの内容評価を行う 講義・演習により、すべての学ぶべき事項を学習した後、科目最終試験（筆記試験）を行い、科目全体の理解度を確認する			

通番	学ぶべき事項	単元	学習内容	方法	時間数
1	1	臨床薬理学とは	臨床薬理学とは 医薬品に関わる制度・法律・ガイドライン 薬の開発・治験、薬の有効性・有用性 薬物による健康被害（薬害）、薬物相互作用	講義 (放送授業)	2.5
2	1	薬の体内動態と相互作用	薬物の体内動態（ADME）と臨床薬物動態学 薬物の血中濃度の時間経過 薬物の吸収、分布、代謝、排泄 薬物輸送系と薬物トランスポーター 吸収に影響を与える因子 チトクロムP450アイソザイムと薬物代謝 健康食品と薬物代謝の相互作用	講義 (放送授業)	2
3	4	安全管理、薬物モニタリング、有害反応	薬物動態学と薬力学：薬力学、薬物動態学 TDM：評価点と投与量変更、薬の種類・個人差、評価の注意点 副作用（有害反応）	講義 (放送授業)	2
4	4	薬物療法における安全管理と処方の理論 薬物の処方、最新情報の入手	薬物の処方 薬剤師による処方の管理 医療用医薬品添付文書（添付文書） 医薬品情報（DI）の入手方法	講義 (放送授業)	2
5	2,3	消化器系疾患の薬物投与方法 高齢者に対する薬物投与方法	消化器系疾患の薬物投与方法 消化性潰瘍・その他胃の疾患と薬物投与方法 肝・胆・膵の疾患と薬物投与方法 高齢者の生理機能と薬物動態 高齢者によくみられる疾患と薬物療法	講義 (放送授業)	2
6	2,3	妊婦、授乳婦、小児に対する薬物投与方法	妊娠に関する基本 妊娠と薬の基本的な考え方 授乳と薬の基本的な考え方 小児に対する薬物投与方法	講義 (放送授業)	2
7	2,3	高血圧の薬物治療	血圧とその調節機構 高血圧の診断と管理計画 降圧薬の作用部位と機序 降圧薬の選択・使用指針	講義 (放送授業)	1.5
8	2,3	心血管系に作用する薬物と作用機序	高血圧の薬物治療 低血圧の薬物治療 末梢循環障害の薬物治療	講義 (放送授業)	2.5
9	2,3	感染症の薬物投与方法①	感染症とは 細菌感染症の成立と抗菌薬の作用機序（概要） 薬剤耐性と抗菌薬の選択	講義 (放送授業)	1.5

10	2,3	感染症の薬物投与法②	抗菌薬の作用機序（細胞壁合成阻害薬、蛋白合成阻害薬、核酸合成阻害薬、葉酸合成阻害薬） 耐性菌 真菌感染症と薬物の作用機序 ウイルス感染症と薬物の作用機序	講義 (放送授業)	2.5
11	2,3	糖尿病の治療に関わる薬物と作用機序① 経口血糖降下薬	糖尿病治療の概要 経口血糖降下薬の概要 経口血糖降下薬の作用機序 糖尿病の経口配合薬	講義 (放送授業)	2
12	2,3	糖尿病の治療に関わる薬物と作用機序② インスリン療法と妊娠における糖代謝	インスリン療法の適応 インスリン製剤の種類 インスリン療法導入時における患者への説明 妊娠中の糖代謝異常 妊娠中の血糖コントロールの実際	講義 (放送授業)	1.5
13	2,3	代謝性疾患における薬物と作用機序	脂質異常症と薬物の作用機序（脂質異常症、高コレステロール血症、高トリグリセライド血症、家族性高コレステロール血症） 高尿酸血症と薬物の作用機序（高尿酸血症、痛風） 骨粗鬆症と薬物の作用機序（骨粗鬆症と骨代謝）	講義 (放送授業)	2.5
14	2,3	悪性腫瘍と薬物療法	悪性腫瘍の概要 がん薬物療法 がん薬物療法の実際と曝露対策 抗悪性腫瘍薬の概要（殺細胞性抗がん薬、分子標的治療薬、内分泌療法薬、免疫チェックポイント阻害薬） 副作用（有害事象）の概要と対応 緩和ケア	講義 (放送授業)	2
15	2,3	抗悪性腫瘍薬の作用とその特徴	殺細胞性抗がん薬 分子標的薬 内分泌療法	講義 (放送授業)	2
16	2,3	抗悪性腫瘍薬と有害事象	有害事象の定義 代表的な抗がん薬の有害事象（骨髄抑制、消化器症状、血管外漏出、皮膚障害、免疫関連有害事象）	講義 (放送授業)	2
17	2,3	精神疾患に関わる薬物① 代表的な精神疾患の病態生理と治療	神経薬理学 シナプス伝達 薬理学から見た中枢神経の組織構造 代表的な精神疾患の病態生理と治療（統合失調症、うつ病、双極性障害、心身症、てんかん）	講義 (放送授業)	2.5
18	2,3	精神疾患に関わる薬物② 精神疾患における代表的な薬物と有害事象	抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 心身症治療薬 抗てんかん薬	講義 (放送授業)	2.5
19	2,3	救急初期診療に使用する薬の処方と薬理作用	循環作動薬 抗不整脈薬 血栓溶解療法（rt-PA） 鎮痛薬 鎮静薬 抗けいれん薬 利尿薬	講義 (放送授業)	2
20	2,3	輸液・輸血療法に関する理論と実際	体液の組成と調整、体液バランスの異常 血漿浸透圧 輸液製剤の種類と組成、輸液の実施 輸血療法、輸血の合併症 透析液	講義 (放送授業)	2
21	1,2,3,4	臨床薬理学 演習	主要疾患に対する薬物治療と服薬管理、多職種連携 ・個人学習：所属施設で経験した典型的な疾病や症状を1例挙げ、その症例の薬物治療と服薬管理や服薬指導、服薬後の観察項目、医師・他スタッフへの報告が必要な項目についてワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習：症例の特徴や注意点、今後の自身の課題などについてグループディスカッションを行う	演習 (面接授業)	3
22	科目最終試験			筆記試験 (対面またはE-ラーニング上での実施)	1
備考					

共通科目名	疾病・臨床病態概論		時間数の合計 40.5		
学ぶべき事項	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ I. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 -1. 循環器系 -2. 呼吸器系 -3. 消化器系 -4. 腎泌尿器系 -5. 内分泌・代謝系 -6. 免疫・膠原病系 -7. 血液・リンパ系 -8. 神経系 -9. 小児科 -10. 産婦人科 -11. 精神系 -12. 運動器系 -13. 感覚器系 -14. 感染症 -15. その他	講義	30	30.5
			試験	0.5	
	状況に応じた臨床診断・治療	状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ II. 状況に応じた臨床診断・治療 -1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 -2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	講義	3.5	10
			演習	6	
試験	0.5				
担当指導者					
学習目標	多様な状況においてあらゆる年齢層の対象者に対してケアを安全に実践するための病態の変化や疾患および治療の基本的な知識を身につける 包括的にいち早くアセスメントするための病態の変化や疾患および治療の基本的な知識の活用方法を身につける				
研修方法 研修場所	講義（放送授業）：E-ラーニング	1) 事前テスト（10分） 2) 講義（PDF資料・動画） 3) 事後テスト（10分～30分）			
	演習（面接授業）：指導者・他の受講者と 対面またはオンラインツール	救急医療・急性期医療における治療の特性・実際の治療			場所：太田西ノ内病院
		在宅医療の特性・在宅医療継続と移行のために必要な支援			場所：太田西ノ内病院
評価方法	講義（放送授業）：各単元ごとにE-ラーニング上で事後テストを行い、理解度を確認する 演習（面接授業）：グループディスカッションの観察評価、レポートの内容評価を行う 講義・演習により、すべての学ぶべき事項を学習した後、科目最終試験（筆記試験）を行い、科目全体の理解度を確認する				

通番	学ぶべき 事項	単元	学習内容	方法	時間数
1	I-1	循環器系の病態と臨床診断・治療	急性心筋梗塞 慢性心不全急性増悪 重症心不全 心房細動	講義 (放送授業)	2
2	I-2	呼吸器系の病態と臨床診断・治療	呼吸器の構造と機能 呼吸器疾患の主な症状とその病態生理 代表的な5分野における主要疾患：感染症、間質性肺疾患、気道疾患、肺腫瘍、肺循環疾患	講義 (放送授業)	2
3	I-3	消化器系の病態と臨床診断・治療	逆流性食道炎 食道がん 胃炎、胃・十二指腸潰瘍 炎症性腸疾患：クローン病と潰瘍性大腸炎 ウイルス性肝炎 肝硬変 急性肝炎・慢性肝炎	講義 (放送授業)	2.5
4	I-4	腎・泌尿器系の病態と臨床診断・治療	腎・泌尿器系の解剖 臨床でよく遭遇する腎疾患：急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD） 腎代替療法：血液透析、腹膜透析、腎移植	講義 (放送授業)	2
5	I-5	内分泌・代謝系の病態と臨床診断・治療	内分泌・代謝疾患の理解 糖尿病	講義 (放送授業)	2
6	I-6	免疫・膠原病系の病態と臨床診断・治療	免疫の基礎 膠原病の概念 関節リウマチ（RA）：疫学と症状、診断と治療 全身性エリテマトーデス（SLE）：疫学と症状、診断と治療	講義 (放送授業)	2
7	I-7	血液・リンパ系の病態と臨床診断・治療	造血器腫瘍：急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性骨髄性白血病 造血不全症：再生不良性貧血、骨髄異形成症候群	講義 (放送授業)	2
8	I-8	神経系の病態と臨床診断・治療	脳梗塞 髄膜炎 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症 多発性硬化症・視神経脊髄炎 てんかん	講義 (放送授業)	2
9	I-9	小児科の病態と臨床診断・治療	小児糖尿病 小児における発熱性疾患：川崎病、髄膜炎、そのほか小児でよく見られる感染症	講義 (放送授業)	1.5
10	I-10	産婦人科系の病態と臨床診断・治療	産婦人科の基礎知識 「産科」領域で扱う疾患の基礎知識 「婦人科腫瘍」領域で扱う疾患の基礎知識 「生殖・内分泌」領域で扱う疾患の基礎知識	講義 (放送授業)	1.5
11	I-11	精神系・精神疾患の病態と臨床診断・治療	精神疾患とは何か 統合失調症の病態と臨床診断・治療 気分障害（うつ病）の病態と臨床診断・治療 神経症性障害の病態と臨床診断・治療 睡眠障害の病態と臨床診断・治療 認知症の病態と臨床診断・治療 神経発達障害群（自閉スペクトラム症、ADHD）の病態と臨床診断・治療	講義 (放送授業)	2.5
12	I-13	感覚器系の病態と臨床診断・治療：眼科	眼の解剖 眼科のcommon disease：白内障／緑内障／糖尿病網膜症／裂孔原性網膜剥離	講義 (放送授業)	0.7

13	I-13	感覚器系の病態と臨床診断・治療：耳鼻咽喉科	聴覚疾患：中耳疾患、急性感音難聴 平衡覚疾患：良性発作性頭位めまい症、メニエール病 鼻疾患：副鼻腔真菌症、上顎がん、上咽頭がん、鼻腔がん、悪性リンパ腫 咽頭/喉頭疾患 音声障害：口腔・咽頭の疾患、唾液腺の疾患、喉頭・音声障害 頭頸部腫瘍：頭頸部腫瘍、喉頭がん、咽頭がん、舌がん、甲状腺がん	講義 (放送授業)	1.1
14	I-13	感覚器系の病態と臨床診断・治療：皮膚科	皮膚の構造 皮膚所見 皮膚科の代表的な疾患：蕁麻疹、湿疹、感染症（帯状疱疹）、薬疹	講義 (放送授業)	0.7
15	I-14	感染症の病態と臨床診断・治療	感染症診療の進め方 抗菌薬の処方・適正使用 インフルエンザとCOVID-19 敗血症・重症感染症	講義 (放送授業)	2
16	I-15	悪性腫瘍の病態と臨床診断・治療	悪性腫瘍の概論 胃癌 大腸癌 乳癌	講義 (放送授業)	2
17	I-12	整形外科の臨床診断・治療	加齢に伴う運動器の変化 サルコペニア、フレイル、ロコモの概念 代表的運動器変性疾患の病態・診断・治療 運動器疾患リハビリテーションの基本	講義 (放送授業)	1.5
18	II-1	救急医療の臨床診断・治療の特性	救急医療の臨床診断・治療の特性 救急医療を取り巻く現状 そもそも救急医学、救急医療とは何か？ 救命救急センターとは何か？	講義 (放送授業)	1
19	II-2	在宅医療の臨床診断・治療の特性	なぜ今、在宅医療なのか 入院・外来医療との違い 治療目標の設定（急性期、慢性期） 多職種連携、地域連携 安定期の診断・治療 変化時・急変時の診断・治療 人生会議（ACP：Advance Care Planning）	講義 (放送授業)	2.5
20	II-1	疾病・臨床病態概論 演習	救急医療・急性期医療における治療の特性・実際の治療 ・個人学習；救急医療・急性期医療における一般的な疾患と治療の特性と、それに当てはまる所属施設で経験することが多い疾患の一般的な治療をワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習；救急医療や急性期医療の治療の特性などについてグループディスカッションを行う ・個人学習；所属施設で経験した症例を1例挙げ、実際の治療と経過および一般的な治療との相違点とその理由、救急医療における自身の今後の課題をワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習；それぞれの症例と治療、救急医療・急性期医療における治療の注意点などについてグループディスカッションを行う	演習 (面接授業)	4
	II-2		在宅医療の特性・在宅医療継続と移行のために必要な支援 ・個人学習；在宅医療への移行または継続が可能な病状・病態について症例を挙げ、自身の考えと今後の課題をワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習；在宅医療の継続と移行のために必要な支援についてグループディスカッションを行う		2
21	科目最終試験		主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論（30分） 状況に応じた臨床診断・治療（30分）	筆記試験 (対面またはE-ラーニング上での実施)	1

備考	
----	--

共通科目名	医療安全学／特定行為実践		時間数の総計 45	
学ぶべき事項	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習・実習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ -①医療倫理 -②医療管理 -③医療安全 -④ケアの質保証 2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work (IPW)）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ -①チーム医療の理論と演習 -②チーム医療の事例検討 -③コンサルテーションの方法 -④多職種協働の課題 3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ -①特定行為関連法規 -②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ -①手順書の位置づけ -②手順書の作成演習 -③手順書の評価と改良	講義	18	
		演習	15	
		試験	1	
		実習	11	
担当指導者				
学習目標	医療安全学 医療倫理及び医療管理に関する知識を身につける ケアの質保証および医療安全に関する法的側面についての知識を身につける チーム医療におけるコンサルテーションに関する考え方を身につける チーム医療における多職種協働を推進するための考え方を身につける 特定行為実践 特定行為関連法規、ならびにインフォームドコンセント理論について理解し、必要な特定行為を安全に実施するための基礎的な能力を身につける 多様な臨床場面において特定行為に関する手順書の作成・活用・評価、見直すプロセスについて理解し、必要な特定行為の手順書を医師とともに作成する基礎的な能力を身につける 多様な臨床場面における特定行為実践に関するアセスメント・仮説検証、意思決定、診断過程に至る一連の流れを理解し、患者の安全を考慮し、特定行為を適切に行うための基礎的な実践能力を身につける			
研修方法 研修場所	講義（放送授業）：E-ラーニング	1) 事前テスト（10分） 2) 講義（PDF資料・動画） 3) 事後テスト（20分～30分）		
	演習（面接授業）：指導者・他の受講者と対面またはオンラインツール	TeamSTEPS [®] の活用 1) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
		チーム医療と医療倫理 1) 個人学習 2) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
		医療安全と多職種協働 1) 個人学習 2) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
		特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援 1) 個人学習 2) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
		手順書作成と見直し 1) 個人学習 2) 集合学習		場所：太田西ノ内病院
実習	特定行為看護師活動の実際		場所：太田西ノ内病院	
評価方法	講義（放送授業）：各単元ごとにE-ラーニング上で事後テストを行い、理解度を確認する 演習（面接授業）：グループディスカッションの観察評価、レポートの内容評価を行う 講義・演習により、すべての学ぶべき事項を学習した後、科目最終試験（筆記試験）を行い、科目全体の理解度を確認する 実習：特定行為看護師と共に行動し、レポート内容評価を行う			

通番	学ぶべき事項	単元	学習内容	方法	時間数
1	1-①	医療倫理の理論	医療における安全と責務（医療における安全とは、医療機関・医療従事者の責務） 医療における倫理と倫理的アプローチ 患者の権利・義務と倫理的課題（患者の権利・義務、事例検討）	講義 （放送授業）	1.5
2	1-②	医療管理の理論と実践	医療機関と医療管理 医療安全のための組織づくり 地域包括ケアシステムにおける医療管理	講義 （放送授業）	1.5
3	1-③	医療安全	医療安全とは ヒューマンエラーの特性 インシデントレポートと情報共有 医療安全におけるノンテクニカルスキル TeamSTEPS [®] の概念	講義 （放送授業）	2
4	1-④	ケアの質の保証	ケアの質保証の基本的な考え方 特定行為に関連する昨今の事故報告の内容 特定行為を受ける患者への説明 医療事故が起きた際の対処	講義 （放送授業）	1
5	2-① 2-③	チーム医療の理論 コンサルテーションの方法	チーム医療とは 医療安全におけるリーダーシップとフォローアップ 組織的コンサルテーションのモデルとプロセス 多職種間の合意形成プロセス	講義 （放送授業）	2
6	2-③ 2-④	コンサルテーションの実際と多職種協働の課題	チーム医療における多職種協働 コンサルテーションの実際と課題（多職種協働の実際、コンサルテーションの実際、今後の課題・計画） 特定行為看護師として活動するためのチーム医療と多職種協働の実際と課題（委員会設立と業務基準作成、病院内における活動の準備、看護部内外への働きかけ）	講義 （放送授業）	1

7	1-① 1-③ 2-① 2-② 2-④	医療安全学 演習	TeamSTEPS®の活用 集合学習： ・TeamSTEPS®の動画視聴後、良い点と改善点を挙げ、特定行為を行う上で特に必要と考えられるツールとその場面、安全推進策などについてグループディスカッションを行う ・ディスカッションを経て、TeamSTEPS®で用いるコミュニケーション、リーダーシップ、モニタリング、相互支援などにおいて特定行為実践の上で重要となる要素とその活用方法についてレポートにまとめる	演習 (面接授業)	2.5
			チーム医療と医療倫理 ・個人学習：提示された症例について、医療倫理とチーム医療の観点からの考察をワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習：医療倫理とチーム医療における支援などについてグループディスカッションを行う	演習 (面接授業)	3.5
			医療安全と多職種協働 ・個人学習：提示された症例について、その状況に至った要因と多職種協働の対策、および多職種協働の円滑化に向けた特定行為研修者としての活動について検討し、ワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・集合学習：所属施設で誰とどのように協働するか、医療安全と多職種協働の円滑化のために実施する活動などについてグループディスカッションを行う ・個人学習：ディスカッションした内容を踏まえ、特定行為研修者として期待されている役割とその役割を果たすために、自身が実習などで学んでいきたい点についてレポートにまとめる	演習 (面接授業)	4
8	3-①	特定行為関連法規	医行為について 特定行為の法的位置づけについて 特定行為実践と法的責任 看護師の守秘義務	講義 (放送授業)	2
9	3-②	意思決定支援	インフォームド・コンセント理論 特定行為研修者看護師の意思決定支援の概論 意思決定の方法と支援方法 意思決定に影響する要因（ヘルスリテラシーと限定された合理性・2つの思考システム、意思決定に影響する要因 理性と情動、価値観・認識）	講義 (放送授業)	2
10	3-② 4-①	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、診断過程	特定行為の実践過程におけるアセスメント 特定行為の実践過程における仮説検証 特定行為の実践過程における意思決定 特定行為の実践過程における診断過程	講義 (放送授業)	2
11	4-① 4-③	手順書の位置づけと運用の実際	手順書概念および意義 特定行為に係る手順書の適用の確認 特定行為におけるコンサルテーションの意義と方法 特定行為に係る手順書例集の活用 手順書の作成から運用の実際（急性期病院の立場から） 手順書の作成から運用の実際（在宅の立場から）	講義 (放送授業)	3
12	3-② 4-② 4-③	特定行為実践 演習	特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援 ・個人学習：特定行為実践に際する患者への説明内容や意思決定支援の方法、協力を得るべき職種と事前に決めておく規定についてワークシートに記載し、指導者・受講者と共有する ・特定行為研修者としての具体的な役割と準備などについてグループディスカッションを行う	演習 (面接授業)	1.5
			手順書作成と見直し ・所属施設での特定行為の実施状況、手順書を作成し運営していく上での課題をふまえて手順書案を作成し、作成した手順書案について所属施設の医師の助言を得て修正する ・手順書案を作成・運用する上での注意点や課題についてグループディスカッションを行う ・ディスカッションを経て、今後の手順書案作成に活かしていきたい点、考慮したい点についてレポートにまとめる	演習 (面接授業)	3.5
13		【実習】 医療安全	医療安全における多職種協働 演習での学びを踏まえ、医療安全における多職種協働実践の活動に同行し、自部署における多職種協働実践のために自身が果たす役割についてレポートにまとめる。	実習	6
14		【実習】 特定行為実践	特定行為看護師の実践 ・特定行為看護師の活動に同行し、手順書に基づく行動や多職種協働実践の実際を見学し、自身の今後の活動についてレポートにまとめる。	実習	5
15		科目最終試験		筆記試験 (対面またはE-ラーニング上での実施)	1

備考	
----	--